

傘

Aブロック 全作品と講評



www.columnland.net/

にて作者さん&読者さんの声実況中

「二人で入れるように」と

あの時君が選んだ傘は

ぼく一人には大きすぎて

傘の領域

傘の道具としての役目とは、人を外界と分ける境界のようなものであり、人は傘が作り出した領域を活用しているのである。具体的に言うならば、雨の日に傘を差して歩くのは雨に濡れないためであり、これは傘の作り出した雨の届かない領域を利用しているのである。また日傘でも同様であり、日光を防ぐような使い方もできる。

この傘の作りだす領域が遮断するのは何も雨や日光に限った話ではない。この領域というのは外界と自分とを遮断するのである。例えばゴシックロータ（以下ゴスロリ）という言葉聞いたことはないだろうか？これは簡単に言ってしまうえば暗い色のふりふりのドレスを着た女の子の服装を指していて、物語に出てくるようなメルヘンさが特徴だ。そのファッションのアイテムとして、これまた暗い色の日傘がよく挙げられる。このゴスロリにどうしてそのような日傘が似合うのかと言われたら、それは傘の作る領域が、より一層ゴスロリというファッションを現実から離れた幻想的なものにするのに役立っているからだろう。

このような傘の作りだす領域は、外界と一線ひかれた場所である。そして、傘の作りだすその領域はその傘の持ち主のみに許された場所だと言える。先程のゴスロリの例でも、雨でも日光でもそうだが傘の下に入るのには基本的に一人だけなのである。それより多くなると領域に収まらないために、傘の目的は達成されないからだ。しかし、傘に二人で入る例外は存在する。それは傘の目的が移り変わるとき。つまり、濡れてしまうことに構わず、誰かと一緒に傘に入りたいという目的に変わるときだ。このとき傘の中ではどこか現実離れたような気分になるのではないだろうか？それが傘の力であり、二人だけの領域を作っているのである。

私は基本的には折り畳み傘を使っている。駅までの道ならばそれで十分だからだ。しかし、たまに休日などに調度いい雨が降っている日には、大きな傘をさして近所を散歩したくなる。その時にいつもの道がどこか不思議に感じるの、傘の作りだす領域のおかげなのだと思う。

ただいま四本目

買つてすぐ
止むなよ

涙雨

その人はいつもそこにいた。何かを見ているような、何も見ていないような目でその人はいつも駅の出口をながめていた。傘をさして、さらにもう一本の傘を手に持ったまま。

淳がその人に気がついたのは一ヶ月ほど前だった。その日、夕方のラッシュぐらいの時間に改札を出ると、人ごみのたくさん頭のずっと向こうに紺色の傘が見えた。淳はさつきまで雨は降っていなかったのに、降り始めたのかと思って焦ったのだが、やっぱり雨は降っていなかった。淳が不思議に思っで見ると、傘を持っていたのはひとりのおばあさんだった。おばあさんはずっと改札から出てくる人の群れを見ているように見えた。淳は待ち合わせかな、と思ひなんとなく通り過ぎた。

次の日もまた次の日も、おばあさんはずっと立っていた。帰る時間が少しくらい違つても、おばあさんはいつも立っていた。一度気づいてしまうと淳はついそのおばあさんが気になるようになってしまっていた。

その日は突然だった。

その日、淳は部活の試合が長引いてちつとも帰れず、電車に乗ったのはもう十時すぎだった。会社帰りの人もほとんどいな

いガラガラの電車にのつて最寄り駅まで戻り、淳が疲れた体を引きずつて改札を出て歩き出したときだ。

「おかえり。」

疲れて忘れていた。おばあさんはこんな時間でも立っていたらしい。そしてなぜか、淳に黒い傘を差し出していた。おばあさんはにこにこ笑っている。

「あ……えつと……。」

「待つてたんだよ。遅かったね、帰ろうか直也。」

淳がおろおろしていると、おばあさんがさつきの傘を淳に握らせた。淳はなんだか突き放すことができず、そのままおばあさんについていく感じになってしまった。歩いている間ずっと、おばあさんは淳のことを「直也」と呼んだ。淳は「直也」のことをたくさん聞いた。

途中、弱い雨が降り始め、黒い傘をさした。持ち手がさびていて開きにくかった。淳はそのまま結局おばあさんの家までついていってしまった。

家に着くと、おばあさんの家族は驚いて淳に何度も謝った。そして淳は知った。おばあさんは帰つてこない人を待つていたのだった。

淳は傘を返して、雨に濡れながら家まで帰った。今日だけは、雨が降っていてよかったと思つた。

雨にも負けず

雪にも負けず

夏の暑さにも負けないう君だけど

風にはすぐに負けちゃうね

いつもは玄関にいます。

冬はあんまり雨が降らないので、出番は少ないです。冬の玄関は寒くて、暗くて、さびしい日々が続きます。

カエルの鳴き声が聞こえる時期になると、僕は貴方と一緒に出かけをします。体を張って一生懸命貴方を雨から守ります。店の中に入る時は、ビニールに閉じ込められて蒸し暑いです。

守るだけではありません。きれいな色や模様で、貴方を飾ります。私の友達は黄色です。子どもたちを雨だけでなく、危険からも守っているそうです。いい仕事をしていると思いませんか？

湿っぽい匂いがする朝、貴方が私を忘れると、外で雨に降られて困っていないか不安になります。でも、貴方が家に帰ってくると透明な友達が一人増えるので、なんとなく楽しいかも。

休日になると、貴方は私を庭に出してくれます。お日様の光を浴びて、湿気を吹き飛ばすのは爽快です。

私は青春のひとコマにも登場します。放課後、ちよつぷり大きな私は、通り雨で困っている同級生も一緒に雨から守ってあげます。素敵でしょう？

私は貴方の記憶の中に必ず居るでしょう。目立たないですけど。雨の日の思い出は悲しい事が多いかな？貴方は私と手を繋ぐ度に、その記憶を呼び覚ますでしょう。たとえそれが悲しい思い出でも、多分、それを思い出す事が出来る貴方は強い人なのだと思います。

最近、スゴイ友達が出来ました。水を弾くらしいです。しかも丈夫でコンパクトだから……。それでも貴方は私を使ってくれる。ありがとう。

これからも、大事にして下さいね。

日傘

「ねえ、地球で一番大きい日傘ってなーんだ。」

小学生ぐらいの子供がベッドの上から母親に話しかけている。

私は隣のベッドでそれを聞いていて、二つの答えが思いついた。

母親は一瞬ためらって答える

「何かなー、でもそんな傘があったら優君もおそとで遊べるのにな。」

母親が辛そうに笑いながら言う。

「本当にあるんだよー。そんでね、地球よりも大きいんだよ。」

子供は誇らしげに言った。

(じゃあ あれか)

どうやら母親も気付いた様だ。

「でもね優君、それだけじゃおそとで遊べないの。」

子供は笑いながら言う

「日傘がなかったらね、夜もおそとに行けないんだよ。それにね、セミもカブトムシもみんな死んじやうんだよ。」

子供はいつも日が沈んでから長袖

の服を着て外に出ていく。

子供はいつも笑っていた。

それを見て母親も微笑んでいた。

(太陽と月…)

そういえば母親の笑顔は満ち欠けする

太陽が無ければ月も輝かない、

いつか子供を失ったとき母親はどうなってしまうのだろう。

ふとそんな事を思った。

後日子供は退院した。

(見捨てられたか…)

その日も子供は笑っていて、私にこう言った。

「お姉ちゃんも早く病気良くなるといいね」

母親は会釈をして黙って出て行った。

夏だというのに太陽の消えた病室はやけに静かで、そして寒かった。

(クーラーの設定温度は18℃)

五月雨

外では雨がしきりに降っている。多くの者はこの時期を嫌っているのだろうとお蜜は思った。「またいらしてください」

お蜜は笑顔で客に傘を手渡した。この甘味処では傘を忘れた客に無償で貸し出すことにしている。お客はこの店に好印象を抱くし、傘を返すために再び店を訪れるから店としても一石二鳥なのである。

「あんたの提案のおかげでここ最近の売り上げは黒字だねえ」

店が閉まった後、この店の主人の姐さんはつぶやいた。傘を貸し出す提案をしたのはお蜜であつた。

「喜んでいただけうれしいです」

「あんたに傘を渡されるのを待っている客もいるしね」

面倒くさそうに煙管を掃除しながら姐さんは言った。

「それはあの厳格そうな侍様のことでしょか」

雨が降り出しそうで降らない日にやって来て、降り出すと帰ってゆく侍の顔をお蜜は思い出した。

「わかつているじゃないか。ところで、明日はあたしは留守にするから店は頼むよ。何、この雨だ。来るのはその侍様ぐらいさ」

いたずらっぽく姐さんは笑い、紫色の傘を手にとって帰っていた。

明くる日、予想通りその侍様だけは現れた。みたらし団子を一つだけ頼み、渋い茶をすすっている。

「先ほどは降っていなかったのに。稀に見る豪雨になりましたね」

沈黙がたえられず、お蜜が言った。店には二人しかない。

「うむ。ところでぬし、傘は持っているか」

「いえ。最近傘の貸し出しも多くて、すっかりなくなってます。まったのです」

「そうか。ではこの傘を返そう」ずつと借りていた傘をお蜜に返すと、雨に濡れながら走り去ってしまった。

しばらくお蜜は意味が分からなかったが、侍様の優しさに甘えて傘をさして帰ることにした。静かに雨が降り注いでいた。傘は温かいな、とお蜜は感じた。

「あめふり改」

あめあめ ふれふれ かあさんが
蛇の目で おむかえ 憂しいな

びっちびっち ちやぶちやぶ nnnnnnn

かけましょ かばんを かあさんの

あとから ゆこゆこ かねがなる

びっちびっち ちやぶちやぶ nnnnnnn

あめふる よるに ねえさんが

くびつり させられ しんでいた

びっちびっち ちやぶちやぶ nnnnnnn

あらあら あのこは ずぶぬれた

やなぎの ねかたで ないている

びっちびっち ちやぶちやぶ nnnnnnn

かあさん ぼくのを かしましよか

きみきみ このかさ さしたまえ

びっちびっち ちやぶちやぶ nnnnnnn

ぼくならいいんだ かあさんの

おおきな 蛇の目にはいってく

びっちびっち ちやぶちやぶ nnnnnnn

雨降る夜に柳の木の下で死んでいる女の子が発見された。そのときからである、この童謡が歌われ始めたのは。

「メイ

トロの

あれ

ほしい」

——雨の中のバス停にて

俺は女だ。自分で言うのも何だが、かなりかわいい。少なくとも周りはそう言うし、自分でもそう思う。スタイルも他の女子高生より勝っている自信がある。実際、町を歩くと、かなりの数の男共が振り向いて俺を見る。もちろん自分の容姿を保つためにそれなりの事はやっている。日焼け止めは欠かさず、食事は厳しく管理している。流行にも敏感で、おしゃれに手間は惜しまない。だが、どんなに美貌を磨いても、どんなに熱い視線を送られても、どんなに羨ましがられても……俺は女になれない。

普通、この手の障害者は、自分の身体を不自然なものと感じるそうだが、俺は逆に、自分の精神が不自然だと感じている。人前では決して見せないが、俺はミリタリーマニアだし、好きなゲームはバイオハザードだ。性欲を覚えるのはもっぱら女の子だし、男の子とキスするなど考えただけでも吐き気をもよおす。そもそもあんなゴツくて毛だらけで汗臭くて下品で幼稚で気持ち悪い種族のどこがいいのか。そして、そんな下劣な種族と同じ精神を自分が持っている事が俺は我慢できない。だから逆に、徹底的に女の子になりきる事で俺はそれを揉み消そうとした。だが、今の所それはあまり上手くいっていない。

俺の精神構造は複雑だ。俺の根本的な意識は男だが、自意識はそれを認めず、女としての人格になる事を求めている。その自意識は男を好きになる事を求め、女に性欲を感じる俺の無意識を潰したがつている。そしてそれに抵抗する無意識との境目で、俺はずっと苦しんでいる。

生徒会室で東肇^{トモシゲ}を初めて見た時、その容姿の端麗さに俺はつきり女かと思ってしまった。奴は俺が忌み嫌う「男らしさ」を何一つ持たぬ男だった。自分の内面を見ているようで男を直視できない俺が、初めて抵抗なく顔を見られる男だった。素直に素敵だと思えた。途端に俺の自意識が、今こそ男を好きになれるチャンスと騒ぎ出した。すると無意識の方が俺はホモじゃねえと怒鳴り出す。だが、友達として付き合うくらいなら不快じゃないですよと言われて、無意識は渋々ながら、頷いた。

実際話してみると東肇は本当に気持ちのいい、素敵な青年だった。頭が良く学者肌で、人としての器の大きさが見てとれた。俺は次第に肇と親しくなった。誰もいない生徒会室で、よく二人で話し込んだ。奴の実直で素直な氣質を信頼して、ある日俺はどうとう自分の素性を明かした。俺を男として見てくれと、頼んだ。両親にすら教えていない俺の秘密を、肇は真摯に受け取ってくれた。

肇の前で一人称を「俺」に変えた瞬間から、世界はがらりと変わった。今まで俺が自分をどれだけ抑圧していたかを痛切に感じた。問題が解決したわけではない。女になりたいという願いは叶わないものの、男である自分を許容してくれる人が一人いるだけで、苦しみははるかに

楽になった。肇の前で、俺は思いきり男として振舞えた。

だが、そんなある日、肇の友人と称する男が俺に耳打ちしてきた日から、何かが狂い始めた。男は肇が俺に惚れており、最初からそのつもりで俺に接しているなどという事を、不快なやけ顔で囁いた。もちろん俺は笑って相手にしなかったし、単なるやつかみだろうと深く考えなかった。だが、心のどこかにひっかかりが残ったのも事実だった。しばらくの間は何事もなく過ぎた。

その日、午後から雨になると知らなかった俺は、下駄箱の横で土砂降りの外を前に、一人途方に暮れていた。折よく、傘を広げた肇を見つけて、俺は弾んだ足取りで奴の元に走った。どこか照れたような顔で傘に入れてくれた肇と共に外に出ようとしたその時、突然後ろから下卑た囁き声が浴びせかけられた。思えば、一つ傘の下で男女が並んでいるのを見れば、幼稚な男子生徒なら口笛の一つでも吹くのは当然の事だっただろう。

だが、その一声が全てを壊してしまった。

自分と肇が周りからそういう関係に見られていた事に、その時その瞬間まで俺は全く気づいていなかった。カッと顔に血が上り、背筋に怖気が走った。俺は肇を突き飛ばし、土砂降りの中をあらん限りの力で走った。

自分の鈍臭さを、ひたすらに呪った。

その夜、散々迷った末、俺は肇に電話をかけた。単刀直入に訊いた。「俺のことを、どう思っている」

長い長い沈黙の後、肇は消え入りそうな声で、答えた。

その日以来、俺は肇と一言も口をきいていない。顔すら合わせずに互いを避け続け、結局そのまま高校を卒業した。その後も音信はなく、人伝てに奴が工業大学に進学し、精神工学を学んでいる事を知るくらいだった。

俺は相変わらず女としての自分を演じ続けた。誰にも素性を明かせない歪んだ日常に耐えきれなくなると、自然と肇が思い出された。その度に俺は頭を振って奴を追い払った。あいつは俺を裏切った。俺の気持ちを踏みにじったんだ。結局あいつは、俺を女としてしか見なかったんだ。

だが、それほど時を経ても、俺の頭から肇が消える事はなかった。俺の生活は、次第に荒んでいった。

数年後、いつものように会社を休んで家に閉じこもっていた時、一通の封筒が届いた。入っていたのは新聞の切抜きと短い手紙。切抜きには「世界初、精神性別転換技術の確立」の文字。手紙は、大学病院への無償入院の招待状。そして末尾には「教授・東肇」の署名。

そして—— 238 日後。

私が病院を出ると、外は雨だった。タクシーを呼ぼうかと思った時、玄関の隅に、傘を広げて立つ男の姿を見つけた。手術後初めて見る肇の顔を見つめた瞬間、私は手術が成功している事を確信した。

私は弾んだ足取りで、彼の元に走った。

赤坂サカスで傘サガス

よしっ、そろそろ帰ろうか。

おや、外は雨が降っているようだ。
しまった、傘がない。

どうしよう。

そうだ、買いに行けばいいのか。
でも傘がない。

電話して迎えに来てもらおう。

あれっ、ここは圏外か。

外に出よう。

ああ、傘がないのか。

どうしよう。

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	(無題) 大きすぎて	18 pt	2 位	1 sp
		先週の裏表紙「祈り」（作者さん命名）に引き続き、余白に語らせるという、あざやかなアイディアでした。（ただし作者さんは別のかたです。）さびしいなあ。せつなさが歌詞のように語りかけてくるシンプル表紙に、しっとりしたセッションの始まりの予感。半実話？のような作者さんトークでした。なるほどだから、これだけ気持ちが伝わってくるのかと納得してみたり。イメージ図を描いてくれた班までありましたよ。おめでとう、シルバー・メダル!! 特別賞：経験がないで賞（みんな、したことないよ）		
A02	傘の領域	3 pt	8 位	1 sp
		ガチ正統派だね、とT Aさんたち好評価。傘という物体がつくりだす空間の特性について、外界と遮断された「領域」の創出というコンセプトでくっきり切り出して、ゴスロリに相合い傘、比喩もみごとにハマり、論旨の運びが、とてもパワフルで説得的でした。 特別賞：ゴスロリ賞（ゴスロリとはあたらしい） イチオシフレーズ：「ゴシックロリータ（以下ゴスロリ）」		
A03	ただいま四本目	14 pt	3 位	3 sp
		うん、ありそうだね、と苦笑を誘います。タイトルと本文の呼応関係も楽しくてGood。こんなに短いのに、なんだかいろいろつっこみたくなる。それだけ生活感に根ざしてたってことでしょうか。おめでとう、ブロンズ・メダル！ 特別賞：天気予報を見ま賞（お金がもったいないよ！）環境を大切にしま賞（No ego! Yes eco!）天気予報を見てきま賞（me too） イチオシフレーズ：「買ってすぐ止むなよ」× 2		
A04	涙雨	8 pt	4 位	0 sp
		おばあさん！泣けます。特にラストのフレーズ「今日だけは、雨が降っていてよかった」が私にとっては大泣きポイントでした。でも、ずうっと待ってられるって、しあわせかもしれないね。		
A05	(無題) 雨にも負けず	8 pt	4 位	1 sp
		うん、そうだね。日常のひとりごと。堂々と始まって、ヘタレで終わる落差が短いなかに演出できていて良かったです。		

			特別賞：気付かなかった賞（セッション中に一番もり上がった）		
A06	いつもは玄関にいます。		7 pt	6 位	1 sp
			これいいなあ。傘の気持ち。 自分の仕事に誇りを持っていて、でも、使ってくれる人への感謝も忘れずに。 そこのバランスが良くて、しみじみ浸れます。 サウイフ傘二私ハナリタイ……なんてね。 特別賞：傘を大事にしま賞（よく傘は盗られるから）		
A07	日傘		0 pt	10 位	1 sp
			子供の笑顔が太陽、でしょうか。日傘が何だかは、けっきょくよく分からなかったです。大気圏？？解説プリーズ。 病院という死と隣り合わせのはりつめた環境ゆえに、会話のひとつひとつが切実に聞こえてきました。読者に疑問を残さない仕上がりになれば、ぐっと映えると思います。 特別賞：解説して欲しいで賞（分からない） イチオシフレーズ：「クーラーの設定温度は18℃」（五七五）		
A08	五月雨		5 pt	7 位	0 sp
			傘がつなぐ人の温もりを時代劇仕立てで、しっぽりと伝えていただきました。 タイトルもゆかしく決まって、一幅の絵のような。 イチオシフレーズ：「お蜜」「うむ。ところでぬし」×2		
A09	あめふり改		0 pt	10 位	2 sp
			無邪気と油断していると、じわりと恐い、そんな改。童謡って、そんなところがたしかにありますよね。その形をとてうまく使っていただきました。 その恐さ加減、短い時間ではなかなか伝わりにくいけれど、特別賞の班にはちゃんと届いたようですね。 特別賞：深いで賞（とても深い）解説求む賞（よくわからないから教えて） イチオシフレーズ：「ゆこゆこかねがなる」		
A10	（無題） トトロ		0 pt	10 位	1 sp
			で、「あれ」手に入れたら、どうするの、メイちゃん？空、飛ぶの？それとも、「とうもころし」乗っけるのかな？ イチオシフレーズが、みんな全文引用で3班もという珍事つき。 次は既成イメージに頼らない路線をぜひ。 特別賞：と→と→ろおお賞（トトロの名シーンがよく活かされている） イチオシフレーズ：「メイトトロのあれほしい」×3		
			25 pt	1 位	1 sp
			うう、ぎゅうぎゅう。 さすがにどうにかしたい（外見への苦言）。 男と女、大問題。 チャレンジ精神は買うけど、もっと消化してからストーリー化したい。なんだか、むやみと観念を振り回して終わった感（なかみへの苦言）。		

A11	238日後	そして、238の意味は、そんなとこ？ とまあ、苦情をいろいろ言いましたけれど、考え抜かれた設定とそれを形にする文章力、群を抜いてましたね。 めんどーがらずにしっかり読んで評価したフロアのおかげでゴールド・メダルです、おめでとう!! 特別賞：頑張ったで賞（文章長い。想像力豊か。実際、すなおにスゴい。ドラマの「Last Friends」思い出しました） イチオシフレーズ：「俺はホモじゃねえ」
A12	赤坂サカスで傘サガス	2 pt9 位3 sp 読み疲れたら、ラストはお茶漬けサラサラどうぞ。 なんでもないようできて、このリズムとフェイドアウト感、さいこー！ 特別賞：やつつけで賞（右に寄りすぎ、、、）よくあるで賞（たしかにわかる おもしろい目のつけどころ） NON-STYLE賞（エレベーターのネタですね） イチオシフレーズ：「赤坂サカスで傘サガス」×2 「ああ（はあと） 傘がないのか」

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	カサナラナイ	0 pt	11 位	1 sp
		リフレインをじょうずに変化させて。 雨、のち、しあわせ。とてもこまやかなつくりの今週の表紙でした。 特別賞：切ないで賞（セツナイ感じが胸キュンする） イチオシフレーズ：「傘ならいらない」		
B02	とある少女の恋	5 pt	5 位	1 sp
		少女、恐すぎ！ 純愛モノかと思いきや……いや、これもひとつの純愛モノ？ 話運びの軽快さに、みごとにダメされました。ぞぞ。 特別賞：戦慄賞（とにかく「こわい」の一言につきる）		
B03	君の笑顔	11 pt	3 位	1 sp
		お天気おねえさん、すてきな笑顔でみんなをダメす。 いや、ダメしてるわけじゃないんだけど、ね。 視点のちょっとした転換で、日常シーンを新鮮に見せていただきました。 明日はきっと晴れるでしょう。 だって、ブロンズ・メダル！ だもの。 特別賞：オチ見えすぎ賞 イチオシフレーズ：「よし、明日も傘、いらないな」		
B04	鬼の居所	11 pt	3 位	2 sp
		似合いの文体で、時代設定もぴたりはまって、おぬし、なかなかの使い手じゃのう。 新月の晩、人斬りには良い頃合い、なんて、そうそう誰にも書けるフレーズではありません。 藤沢周平テイストと読みましたが、作者さんトークによると池波さんか、なるほど。 おめでとう、ブロンズ・メダル！ 特別賞：班長の独断で賞（班長が決めたから。班長が歴史好きだから） 渋いで賞（読書量多そう）		
		5 pt	5 位	0 sp

B05	ゆううつアンブレラ	かわいい！ 男の子のけなげさが、とびとびの映像と音で、じつにみずみずしく立ち上がってきます。 情景の見せ方のお手本のような。 イチオシフレーズ：「ばかにするなよ！」「きゅいーん」
B06	精一杯のラブレター	4 pt7 位0 sp 死よ、おまえが私の恋人。 いじめ→死、と直結せずに、いじめ→虚無→死とワンクッション入れた工夫のおかげで、人の生の困難さが際立ってきます。 イチオシフレーズ：「私の精一杯の遺書（ラブレター）です。」
B07	教会で永遠を誓った	3 pt9 位0 sp 遺品の傘を丘の片隅に埋めることで、新しい人生への気持ちのリスタートでしょうか。 2つの視点から構成することで、悲しみと、そこからのテイクオフの両方がうまくつかまえています。 気持ちのしっかりこもったドラマでした。
B08	放課後	4 pt7 位2 sp 乙女心の小さな願い。 フォントもフレーズも、とてもきれいにまとまりました。届くといいね。 特別賞：よってるで賞（自分に自信がある）メルト賞（メルトっぽい感じ、東工大生の反感を買いたいんだか、買いたくないんだか）
B09	サムライ・チルドレン	17 pt2 位0 sp ランドセル・ウォーズ。 得物がすべて傘という設定がすてきです。 傘を思い切り振り回したかった、あの頃のやんちゃ気分がみごとに形になった爽快感にブラボー。あざやかなシルバー・メダルでした。おめでとう!! イチオシフレーズ：「変幻自在の太刀筋を見せる折りたたみ傘。強敵だ」×2「4発目、5発目、6発目、リロード」
B10	G	0 pt11 位5 sp 出ました、おなじみG! 言葉が事実を連れてくる。 歌のお兄さん♪子ども向け番組みたいな、はずみ気分がナイスかと思ったら、アダルトな解釈をされた班もあったようで。 ポイントゼロで最多特別賞、ある意味、ネタ師冥利かも。 特別賞：Ganbarima賞（傘をゴキブリにかえる能力に感動!）ハヌマーン賞（タイトルがGということでわくわく読み苦笑。寒気を感じさせるがおもしろい）人類の敵で賞（マジでキライ）Gラブ賞（委員長はGと同棲中。家賃は全額委員長持ちだけど）下ネタで賞（色々連想させてしまうから） イチオシフレーズ：「G」
B11	落書き	3 pt9 位1 sp まさかの偶然を、相合い傘プラスハートマークでつないだ伏線が、ていねいな手仕事感覚で好感。 でも、雨はいつ上がったのでしょうか<ラスト 特別賞：序賞（乙女ゲーのOPっぽいですね。ここからの展開に期待）

			27 pt	1 位	2 sp
	B12	漢字に忠実に。	ばっかだなあ、こいつら4人組。まるでコントのシーンのような。 「傘」という漢字をいじった作品は、今回、山ほどあったのですが、これがもう、圧倒的に圧倒的！でした。世の中ってけっこう楽しいよね。らんらん気分の今週の読み納めです。 おめでとう!!! ゴールド・メダル&イチオシフリーズ大賞！ 特別賞：万引手前で賞（面白い） ノーベル平和賞（こん中で唯一平和） イチオシフリーズ：「……君たち、いいから私の車に乗りなさい。」×5 「肩車した四人で荷台に乗った」		